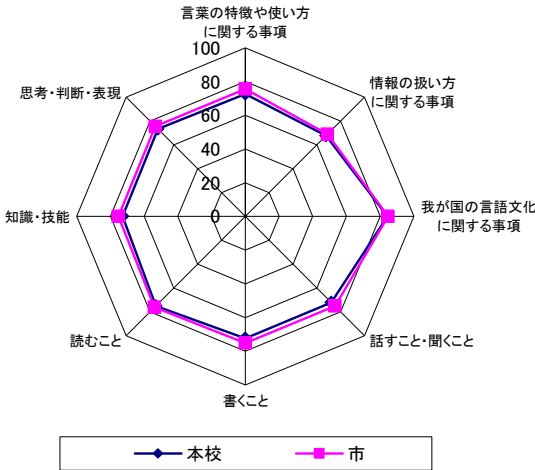


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.6	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	67.8	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	84.3	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	72.2	75.3	69.4
	書くこと	72.4	75.2	65.1
	読むこと	75.1	76.2	68.8
観点別	知識・技能	72.8	75.3	66.7
	思考・判断・表現	73.3	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

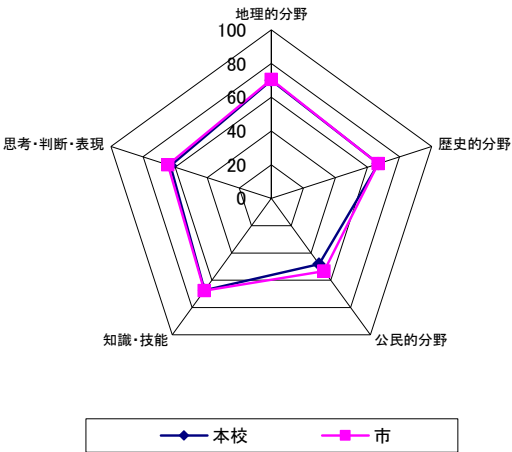
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○9問中8問で全国の平均を上回った。漢字の読み書きでは、1問市の平均を上回った。 ●「敬語」についての問題では、市の平均を6.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・言葉についての学習は、経験の積み重ねが必要となる領域である。家庭学習で積極的に取り組むよう指導するとともに、「漢字の読み書き」「文法的事項」の学習を、読解教材や表現活動などでも、様々な学習機会を設け、知識の定着を図っていく。 ・敬語については、社会に出る時に必要であると意識させて、復習を行う。
情報の扱い方に関する事項	○2問とも全国平均を上回った。「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える」問題では、市の平均を0.1ポイント下回ったものの、全国平均を10.4ポイント上回った。 ●情報を読み取った上で、展開を捉えたり、自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。	・説明的文章の読解で、情報と情報との関係について理解する学習に力を入れる。その上で、自分の考えを分かりやすく伝える文章を書く学習を取り入れ、生徒同士が相互評価する機会を設けることで、情報活用スキルを高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	○1問中1問が全国平均を4.1ポイント上回った。 ●歴史的仮名遣いの理解や、基本となる古語の理解に課題が見られる。	・古典の学習の際に「基本事項」の復習を必ず行うようにし、「歴史的仮名遣い」や「古語」について定着を図っていくことで、古典に対する苦手意識の解消につなげる。
話すこと・聞くこと	○3問中3問すべて全国平均を上回った。特に、「話の展開を予測しながら聞く」問題では、市の平均も1.4ポイント上回った。 ●「聞くこと」に関する問題は得意としているものの、「話すこと」に関する「表現を工夫し、論理の展開を考えて話す」部分に課題が見られる。	・音声言語として分かりやすく伝えることにつながる学習機会を増やしていく。また、教科の授業だけでなく、学級活動等の話し合いでも、学んだ技術を活用させる。
書くこと	○7問中7問すべて全国平均を上回った。特に、「指定された長さで文章を書く」問題では、13.3ポイント全国平均を上回った。 ●「自分の考えを明確にして書く」の問題の「今後自分は、新しい科学技術とどのように向き合って生活していきたいと思うかを書く」で平均を7.5ポイント下回った。理由や根拠の記述の仕方に課題が見られる。	・授業では原稿用紙を用いて、課題作文を書くという学習を数多く行っており、書くことに対する抵抗は少なくなっている。自分の考えに対する根拠も書けるようになり、力もついてきているので、今後は根拠を明確にするための表現の工夫や、まとめ方についても授業で指導していきたい。
読むこと	○6問中6問すべて全国平均を上回った。また、そのうち2問は市の平均も上回った。文章の構成を把握することに良好な状況が見られる。 ●「物語の展開の仕方を捉える」の問題では、平均を2.9ポイント下回った。	・説明的文章より、文学的文章の問題の方が正答率が低い傾向にある。また、情景描写や、登場人物の心情を読み取ることが苦手な生徒が多いため、登場人物の言動から心情を読み取り、情景描写を丁寧に読み取る活動を授業で多く取り入れたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.0	70.5	62.1
	歴史的分野	66.7	66.6	57.8
	公民的分野	48.1	53.3	45.2
観点別	知識・技能	67.3	67.6	59.2
	思考・判断・表現	62.9	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

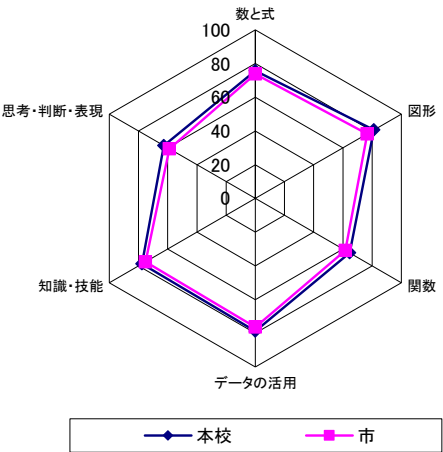
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○気候と住居の関わりについては、市平均を3.3ポイント上回った。日本の地域的特色と地域区分の問題では、3問中すべてで市平均を上回った。 ●日本の諸地域では、中国・四国地方や近畿地方についての正答率が低い。特に、中国・四国地方の地域活性化の取り組みについては、市平均より6.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地理は、遠く離れた国や地域を学ぶため、教科書の文章だけでは実感しにくい。写真や動画などを活用してイメージを広げ、それが資料やグラフの読み取りに応用できるよう指導したい。 また、自分身の周りのことと関連させたり比較させたりして、遠い国や地域も身近に感じられるように指導する。
歴史的分野	○古墳時代から中世の日本では、7問中5問が市平均を上回った。特に古墳の出土品については市平均を7.2ポイント上回っており、全国平均と比べても12.6ポイント上回った。また、建武の新政に関することは、正答率が91.8%であった。 ●江戸時代の内容については、全体的に正答率が低く、特に武家諸法度の内容については、市平均を4.3ポイント下回った。	・古代から中世にかけては、授業の中でグループ活動を多く取り入れ、生徒同士の話し合いや意見の共有によって、より深い学びを実践できた結果と考える。今後はすべての時代で、計画的にグループ活動を行っていきたい。
公民的分野	○公共の福祉については市平均との差はなく、全国平均と比べて9.8ポイント上回った ●公民的分野は全体的に正答率が低く、特に新しい人権の記述は市平均を10.7ポイント下回った。	・公民の重要語句をおさえつつ、根拠を明確にしながら自分の考えを書く時間を、授業の中で確保していく。また、教科書とICT機器を有効に使い、複数の資料やグラフを活用して必要な情報を読み取る訓練をしていく。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.7	73.8	71.4
	図形	81.2	76.7	67.9
	関数	64.6	61.6	52.2
	データの活用	78.7	76.4	65.4
観点別	知識・技能	77.6	75.2	69.9
	思考・判断・表現	62.7	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

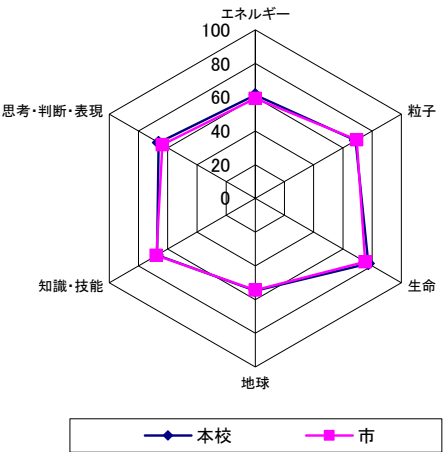
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の計算の問題は、市と全国の正答率を上回っている。特に、正負の数の計算や式の展開、根号をふくむ式の乗法の計算などは82.5%であった。 ●連続する偶数を文字で表すことや方程式の立式は、市の正答率を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算方法は身に付いているが、公式を利用した計算問題に正答率が低くなる。そのため、教科書やワーク、プリント、AIDリルを利用した繰り返し学習を取り入れていきたい。
図形	○図形の問題は、市と全国の正答率を上回っている。特に、作図や図形の位置関係やその表し方、多角形の角度の求め方は81.2%であった。 ●平行線の角の関係と二等辺三角形の性質を利用した角度の求め方は、市や全国の正答率を下回っている。	・図形の性質を組み合わせた角度の求め方については、定義や定理などを利用した問題が多い。練習問題に取り組みながら、定義・定理の理解に努めていきたい。
関数	○関数の問題は、市と全国の正答率を上回っている。特に、変化の割合を求め方やグラフ上から辺の長さや面積を求め方は市の正答率を上回っている。 ●反比例の式を求める問題やxの2乗に比例する関数の座標を求める問題は、市と全国の正答率を下回っている。	・生徒にとって関数的に物事を考えることは難しく、他の領域に比べて正答率は低い。身の回りの事象を関数やグラフに表した授業を展開して、数学のよさをあじわうことで、関数への学習を高めて活用する力を育てていきたい。
データの活用	○データの活用の問題は、市と全国の正答率を上回っている。特に、ヒストグラムの見方や確率の求め方は80.5%であった。 ●ヒストグラムの特徴を読み取って説明する問題の正答率は、61.0%であった。	・近年、データから中央値や最頻値などを読み取り、そのデータを分析し説明する力が必要とされている。身の回りの事象を利用してデータを集め、既習事項を用いて分析する力を育てていきたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	61.4	59.3	62.1
	粒子	68.7	69.5	66.8
	生命	77.4	75.2	70.9
	地球	54.8	54.4	52.0
観点別	知識・技能	67.3	67.7	67.2
	思考・判断・表現	66.2	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

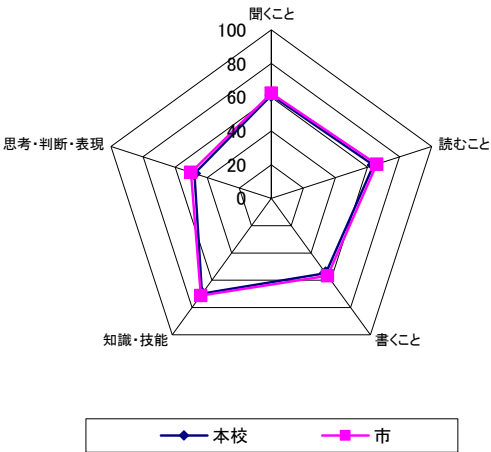
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギー分野全体では、市の平均を2.1ポイント上回っている。特に、乱反射については+3.7ポイント、紙テープの打点から速さの変化を考えるは+5.3ポイント上回った。 ●鏡で反射した光のみちすじやテープの長さから平均の速さを求めるでは市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計算や思考力を問う問題での正答率が市の平均を下回ったので、授業でより思考力を高めるような指導していく。
粒子	○密度の求め方では+5.9ポイント、鉄の見分け方では+6.2ポイント市の平均を上回っている。 ●粒子分野全体では、市の平均を0.8ポイント下回っている。特に、化学反応式の記述では-6.1ポイント、電離については-15.1ポイント下回っている。	・化学反応式や電離の式など、基本的な事項をしっかりと身に付けさせ、問題演習を行うなど定着を図らせたい。
生命	○生物分野は本校内でも正答率が高く、市の平均と比較しても+2.2ポイント上回っている。特に心臓のはたらきについては+10.7ポイント、有性生殖については+5.7ポイントと大きく上回っている。 ●正しいスケッチの描き方についてや、減数分裂についての問題は市の平均を下回っている。	・生物は似た単語や現象が多いため、基本的な事項・性質をしっかりと確認し、定着させていきたい。思考・判断・表現は高い正答率であるので、基本が今よりしっかりと身に付ていけば、更なる向上が期待できる。
地球	○深成岩のでき方についてが+2.6ポイント、大気圧が関係している現象についてが+2.4ポイントと、市の平均を上回っている。 ●4分野の中では本校の中でも正答率が低く、気象分野ではほとんどの問題が50%を下回ってしまっている。	・地学分野は実験も少なく、授業中に現象を視覚で認識できるものがほとんどないため、イメージがしにくい。基本的な事項はICTも活用して視覚化し、様々な現象・パターンを基にした問題を通じて応用力を身に付けさせていきたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	61.2	62.4	59.8
	読むこと	63.7	65.7	58.5
	書くこと	54.9	56.8	43.5
観点別	知識・技能	69.8	71.2	65.3
	思考・判断・表現	48.0	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○10問中、6問で全国の平均を上回った。対話文の応答に関する問題では、全てにおいて全国の平均を大きく上回った。 ●英文を聞き要点を捉える問題では、全てにおいて全国、市の平均ともに下回っており、課題である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・要点を捉える問題は、まず長めの英文を聞く必要がある。日々の授業において、教科書の内容に入る前に本文を聞き、概要を捉える練習など、工夫をしていきたい。
読むこと	○18問中、15問で全国の平均を上回った。長文の読み取りや、並び替えの問題では全てにおいて全国の平均を上回った。 ●3学年時に学習した現在完了や、関係疑問文に関する問題では、全国、市の平均とともに下回っており、課題である。	・現在完了・関係疑問文は文法構造が複雑になることから、苦手と感じている生徒が多い。使い方・語順などを演習問題などを通して丁寧に指導していく必要がある。
書くこと	○5問全ての問題において全国の平均を上回った。3文以上の英作文と書く問題では、大きく全国の平均を上回った。 ●自分の意見に対する理由や説明を書く設問では市の平均を5.0ポイント下回っており、課題である。	・普段の授業の中で、問題演習ばかりでなく、自分の考えや意見を相手に伝える練習、そしてそれらの理由や根拠を適切に書く練習を重点的に取り入れていきたい。

宇都宮市立清原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成	・「自主学習ノート」運用による家庭学習の定着と家庭での学習課題の適切な提示 ・新入生への「きよはら学習ガイド」の配付	・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の項目では、2・3学年の肯定割合は市の平均を上回ったが、1学年の肯定割合は市の平均を下回った。
・個に応じた分かりやすい授業の展開と個別に最適な学びを推進するためのICT機器の活用	・1人1台端末でのAIドリルの活用 ・ICT支援員との協働による学習指導の推進	・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の項目では、3学年のみ肯定割合が市の平均を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合が、3学年とも市の平均を上回るように、家庭学習の習慣化を目的とした「自主学習ノート」の取組を更に継続していきたい。次年度は更に、家庭での学習課題の適切な提示を行い、その日に学んだ学習内容は、その日のうちに復習して定着が図れるように、自主学習の質を向上させていきたい。

・1人1台端末を操作する技能レベルは年々向上してきていることもあり、今後はそれを土台にして「思考力、判断力、表現力等」を育みながら、自らの学びを深めることができる生徒の育成を目指していきたい。